

自分と社会のつながりについての気づきを高める子ども

— 小学4年 「思いを受け継ぎ、みんなで守る松江の年中行事 鑿行列」の実践から —

1 単元のねらい

松江の年中行事である鑿行列の起こりやいわれ、行事の現状やそれを受け継ぐ人々の取組などを具体的に調べ、地域の人々が受け継いできた様々な年中行事の中には、地域の発展やまとまりなどへの願いが込められていることや、それらを保存し継承する人々の工夫や努力がわかる。

2 授業の構想

(1) 子どものとらえについて

以下は1学期「ごみの処理と利用」の学習のまとめとして振り返ったものである。

自分たちが出している燃やせるごみはリサイクルすることでスラグやメタルとなって、道路工事に使ったり、鉄の原料に生まれ変わったりすることがわかりました。リサイクルする理由は未来の子どもたちへきれいな自然を残したいからだと思います。それから自分たちができることを考えてみて、学校の中島さんはすごい方だなと思いました。こわれた熊手をテープで直して再利用しているからです。使っていて、とても気に入っているとっておられてすてきだなと思いました。ごみはゼロにはならないから、気を付けたいことはごみになるものをあまり買わなかったり、マイバックをもったりして、なるべくごみの少ない生活をしたいです。

(児童 A)

1学期「ごみの処理と利用」の学習では、子どもたちにとって身近なものである学級や学校で出るごみを調べたり、身近にいる校務技師の話を聞いたりして学習を始めた。その後は実際にごみ処理場に見学に行ったり、リサイクル都市推進課の方を招いて話を聞いたりするなど、具体的なものや人に出会うことを学習対象との出会いとして授業を行った。実際に自分の目で見る、聞くといった具体的な調査・見学活動を繰り返し行いながら学習を進めることで、ごみ処理の仕方やリサイクルの意味についての追求が続き、理解を深めることができた。また、ごみ処理の仕方を理解するだけでなく、これまで経験してきたことをもとに、身近にリサイクルを実践されている方に思いを馳せたり、ごみの減らし方についても自分のくらしとつなげながら考えたりすることができた。

そこで、本單元においても、鑿行列に携わる方々に話を聞くこと、実際に使っている鑿や道具に直接触れるような具体的な人やものに出会う調査・見学活動を大切にして授業を構想する。このような学習活動を通して、地域の年中行事と自分のくらしとのつながりについて、気づきを深めることができるようにしたい。そして、子どもたち自身が自分も松江市民であること、また〇〇地区の一人であることに気づき、地域の行事に思いを馳せたり、かかわりたいという思いを高めたりするような、地域の一員としての自覚が芽生える姿を期待したい。

(2) 本單元において求めたい姿とそのための手立て

本單元で扱う鑿行列は毎年10月の第3日曜日に行われており、今年100周年を迎える年中行事である。石橋町や殿町といった在学する子どもの地区にも鑿を所有しているところが多くあるため、一度は見たことがあるという子どもだけでなく、鑿行列に参加したことがあるという子どももいる。一方で事前に話を聞く中で、鑿行列のことを全く知らない、参加したこともないという子どももいることがわかった。そこで、本單元では、本教材の魅力と子どもの実態をもとに以下の点に留意して単元を構成した。

① 鑿行列という年中行事について追求したくなる資料，出合わせ方の工夫

子どもたちにとって鑿行列という年中行事は馴染みがあるものではあるが、「どんな行事なのか」，「何のためにしているのか」といったことを考えることは多くない。そこで鑿行列と初めて出会う場面において，今年の鑿行列の写真や子どもたちの体験談をもとに鑿行列について知っていることを話し合う。また，今年の鑿行列のポスターを提示し，今年が鑿行列100周年であることに気付けるようにしながら「100年も続いている鑿行列はどんな行事なのだろう。なぜ100年も続いているのだろう」といった単元を貫く問いを設定できるようにする。また，単元の途中では，鑿行列の参加団体が減少していることや団体によって参加の仕方に違いがあるといった，これまでの概念をくつがえす資料を提示する。このようにタイミングや方法などの資料提示を工夫しながら，鑿行列に対する追求意欲を高めていけるようにする。

② 実際に使っている鑿や道具に触れるような調査・見学活動の設定

年中行事に込められている願いを探るためには，まず年中行事の内容を知ることが重要である。本単元において，友達の話や体験談を聞いたり，映像を見たりするだけでは，鑿行列の内容を知ることが十分にはできないことが考えられる。そこで子どもたち全員が鑿行列という行事を知るために，まずは保存会会長から鑿行列の歴史について話を聞く。また，鑿伝承館に行き，道具を見たり，笛の鳴らし手の方に協力をいただきながら，鑿を鳴らしてみたりといった実感の伴う調査・見学活動を行う。

③ 鑿行列に携わる様々な立場の方の話を聞き，それをもとに自分の考えの立場を明確にした話し合い活動の場の設定

本単元では鑿行列という年中行事を柱とし「なぜ鑿行列が100年間続いているのか」について考えることで，その他様々な年中行事に込められている願いについて探ることを目指す。そのためにまず，鑿行列に長く参加を続けている団体や新規参入をした団体など，鑿行列に携わる様々な立場の方に話を聞く場を設定する。また，その後「鑿行列が100年間続いている理由」について，ピラミッドチャートを活用しながら自分の考えの立場を明確にした学び合いの場を設定する。今回話を聞く3人の思いや各団体の工夫・努力などをもとに考え，鑿行列に対する思いを比較ながら，鑿行列に込められている願いについて探ることができるようにする。

3 展開計画（全11時間）

次	時	主な学習	◇追求する子どもの姿
1	1 2 3・4 5	○松江の年中行事鑿行列は，どんな祭りなのか調べる。 ・鑿行列について知っていること，参加した体験談を伝え合う。 ・資料集や経験したことをもとに鑿行列の内容について調べる。 ・鑿伝承館を見学し，鑿行列保存会会長から話を聞く。 ・鑿行列保存会会長から聞いた話をもとに，わかったこと感じたことについて話し合う。	◇鑿行列の内容や道具について調べたり，保存会会長の話を聞いたりしながら，鑿行列という行事の特徴を，多面的に考えようとしている。
2	6 7	○参加者の減少，後継者不足などの課題を抱えている鑿行列が続けるための工夫していることや続けている理由について考える。 ・鑿行列が抱えている課題を知り，それでも行事を続けている理由や課題解決の工夫について考える。 ・石橋3丁目の方に話を聞きながら，団体の特徴や工夫していることについて考える。	◇鑿行列保存会が参加者・後継者を増やし，続けていくために工夫していることについて考える。 ◇2つの団体の話を聞きながら，昔から続けている慣習を少しずつ変えている理由について考える。

	8	・ 鑿友会の方に話を聞きながら、団体の特徴や工夫していることについて考える。	◇ 2人の方がそれぞれの団体で感じている鑿行列の魅力について考える。
	9	・ 「鑿行列が100年続いている」理由について3人の思いや石橋3丁目、鑿友会、鑿行列保存会の活動をもとに話し合う。	◇ 「鑿行列が100年続いている理由」について、3人の思いや石橋3丁目、鑿友会、鑿行列保存会の活動をもとに考える。
3	10 11	○ 松江市で行われているその他の年中行事について鑿行列と比べながら調べる。 ・ 副読本やその他資料をもとに調べる。	◇ 松江市や地域の他の祭りについて、鑿行列と比べながら、内容や工夫を調べる。

4 授業の実際

(1) 鑿行列という行事に出会い、問いをもつ

① 鑿行列ってどんな行事なの（第1時から第2時）

本単元は授業を行う前の週の日曜日（10月18日）に行われた鑿行列の様子について、話し合うことから学習を始めた。参加したことがある児童、見たことがある児童の意見を整理しながら話し合っていく中で、本番に参加した児童から「今年は100周年の記念の年だった」という意見が出た。そこで行事が続いている期間に関心が高まったタイミングで、用意していた今年の鑿行列のポスター（図1）を提示した。子どもたちは「100年も続いている行事なんだ。」「結構すごい行事なんだね。」など、驚く様子が見られた。一方で、「でも何で100年も（鑿行列は）続いているの」、「何のためにやっているの」という疑問も出た。そこで、教師から「何で鑿行列は100年も続いているのだろう」と全体に問い返しをした。すると、「楽しいからやっていると思う」、「伝統行事だからじゃないかな」といった意見とともに「よくわからない」という意見が多く聞かれた。そこで鑿行列はどんな行事なのか。何で鑿行列は100年も続いているのかという子どもたちの問いを、今後明らかにすることを確認し授業を終えた。以下は第1次終了後の児童Bの振り返りである。



図1：鑿行列のポスター

今日、鑿行列について知っていることを出し合いました。不思議なことは100年前どうして鑿行列が始まったのかということです。また、何のために鑿行列はしているのかなと思いました。調べたいことは鑿行列にはどんな役割があるかということです。
(児童B)

第2時では、今年度行われた鑿行列の映像を見ながら、さらに鑿行列の特徴を探っていく。映像を見ていく中で、「鑿をたたく人は男の人が多い」、「思ったよりたくさんの方が出ている」という新しい気付きも出てきた。一方で、「何のために鑿行列をしているのかはわからない」という意見が多く聞かれた。そこで、鑿伝承館という施設があること、鑿行列保存会という団体があることを伝え、次回調査・見学活動をするための質問内容を確認して本時を終えた。

② 鑿行列をもっと詳しく知りたい、体験してみたい（第3～5時）

第3・4時では、鑿伝承館に行き、保存会会長から鑿行列について話を聞いた。また、実際に鑿行列で使用している道具を見たり、笛の鳴らし手の方に協力をいただき、鑿を鳴らしてみたりといった体験活動を行った。また、実際に鑿行列で使用している道具を見たり、笛の鳴らし手の方に協力をいただき、鑿を鳴らしてみたりといった体験活動（図2）を行った。以下は活動後の児童Cのふりかえりである。



図2：体験の様子

今日、寺町の鑿の倉庫に見学に行きました。長崎さんに話を聞きました。初めは天皇のお祝いのために行われ、今は松江市ができたことを祝う行事であることがわかりました。また、松江市には55台も鑿があることを聞いておどろきました。話を聞いた後、鑿をたたく体験をしました。初めに「すごい音がするよ」と言われて、たたいてみると本当にすごい音がしたのでおどろきました。手やお腹にまで、しん動がきたのですごいと思いました。楽しさがあるからきっと続いているのかなと思いました。(児童C)

児童Cの「楽しさがあるからきっと続いているのだろう」という意見のように、体感したことと鑿行列の魅力とを関連づけて考える姿が見られた。鑿の迫力を身体全体で感じる体験を設定したことで、鑿行列が長く続く理由を探りたいという思いをさらに高めることにつながった。

第5時では、保存会会長に聞いた話をもとに新しくわかったことや不思議に思ったことを伝えた。鑿行列の起こりや道具の特徴を確認していく中で、教師が長崎さんから聞いた鑿行列が抱えている課題について話題を絞るはたらきかけを行った。子どもからは「何であんなに楽しいのに参加者が減っているんだろう」というように、体験した感想と課題のズレに疑問を感じた。そこで、次時に鑿行列の参加者の推移について詳しく調べることにした。

(2) 鑿行列が抱えている課題について考える (第6時から第8時)

① 参加団体や人数はどれくらい減っているの

第6時ではまず初めに、昭和56年から現在までにおける毎年の参加団体数がわかる資料を提示した。過去に比べ参加団体数が徐々に減ってはいるものの、最近10年は平均して20団体が参加していることを読み取った子どもからは「参加団体数はあまり変わってないから大丈夫」という意見が出た。そこで、子どもの思考をゆさぶるため、鑿行列の始まりから参加し附属小学校に一番近い参加団体である石橋3丁目の参加人数の推移を示した資料(図3)を提示した。読み取った子どもからは「このままでは参加できなくなるのではないか」、「高齢化が進んでいるからかも」といった危機感をもった意見が出てきた。そこで、さらに、ある2団体のこれまでの鑿行列への参加年度を示した資料(図4)を提示した。この資料は参加団体の中から、第1回から参加している石橋3丁目とサークルとして新規参入した団体である鑿友会に絞って示した。子どもからは「石橋3丁目は参加人数が減っているのに2年に一度でも参加していてすごい」、「鑿友会は毎年参加している」と意見が出た。そこで最後に「なぜ石橋3丁目は2年に一度でも参加するのだろう。鑿友会は何で毎年参加するのだろう」と問い返すはたらきかけを行い、授業を終えた。以下は第6時終了後の児童Dのふりかえりである。

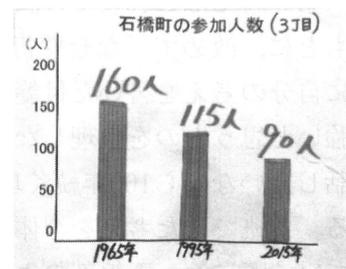


図3：石橋町の参加人数の変化を示した資料

団体名	昭和56年	昭和57年	昭和58年	昭和59年	昭和60年	昭和61年	昭和62年	昭和63年	平成元年	平成2年	平成3年	平成4年	平成5年	平成6年	平成7年	平成8年	平成9年	平成10年	平成11年	平成12年	平成13年	平成14年	平成15年	平成16年	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年
石橋3丁目	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
鑿友会	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1

図4：2団体の鑿行列への参加年度を示した資料

今日は、これまで鑿行列に参加している団体や今、困っていることについて調べました。鑿行列の元そである石橋3丁目の参加人数は、昔に比べてどんどん減っていました。そして石橋3丁目は2年に1度しか出ていません。でも何で2年に1度でも出るのかというと、鑿行列は古くからずっとあるから大切にしたいし、出ると楽しいからかなと思いました。でも、なぜそこまでして出ているのか本当のことを調べたいです。また鑿友会が毎年参加している理由も調べたいです。(児童D)

このように、子どもたちから年中行事としての意味と魅力を関連づけて考える姿が見られた。また、「そこまでして(鑿行列)出ているのはなぜか」という石橋3丁目の参加の仕方に対する新たな問いをもった。次時からはこの追求意欲をもとに、各団体の方に話を聞いていった。

② 鑿行列に参加している団体の人に話を聞いてみたい

第7時では石橋3丁目の方、第8時では鑿友会の方と出会う場を設定し、各団体の特徴や鑿行列への思いについて話を聞いた。以下はそのときの子どものふりかえりである。

Hさんの話を聞いて一番心に残ったことは、鑿行列は地区の小さい子からお年よりまでいっしょに参加できるということです。家族で参加すると、家でもたくさん鑿行列の話ができるから、そこが心に残りました。地区や近所との交流を深めることができるからいいなと思いました。(児童E)

Mさんの話を聞いて、心に残ったことは「死ぬまで続けたい」と言っていたことです。それくらい鑿行列が好きなんだということがおどろきました。うれしいときはみんなの音がそろったり、見ている人が楽しいと言ってくれたりするときでした。だから鑿行列を続けているのかなと思いました。(児童F)

子どもは石橋3丁目の方の話から、鑿行列が「地区の人同士の交流を深める機会」、「世代を超えた交流ができる」行事であることをつかんだ。また、鑿友会の方の話をもとに、鑿行列が「誰もが楽しめる」、「町を盛り上げる」行事であることをつかんだ。このように立場の違う2人に出会わせる場を設定したことで、鑿行列の魅力について多面的な視点を獲得することができた。これは第1時に子どもたちがまとめた「なぜ鑿行列が100年も続いているのか」という問いの答えに迫るものである。そこで、単元全体を通した問いを明らかにするため、「今、鑿行列に参加している人は何で鑿行列を続けているのだろうか」と尋ねた。子どもたちは、これまで各団体の方に聞いた話をもとに、今の自分の考えを付箋にまとめた。

(3) 鑿行列が100年続いている理由について考える (第9時)

第9時ではこれまでの調査・見学活動や話し合い活動を通して、広げていった鑿行列への見方をもとに、改めて「なぜ鑿行列は100年間続いているのか」について理由を考えていった。まず前時に自分の考えを書いた付箋を使い、班ごとにピラミッドチャートを活用しながら、より理由として強いと思うものを整理しながら意見を出し合った。その後、各班でまとめた意見をもとに全体で話し合いながら100年続く理由をまとめていった。以下は第9時の全体で話し合う場面の記録である。各班で出た考えを全体で広げていく際には、下線部のように各団体が行った工夫に込められている願いについて考えられるよう問い返すはたらきかけを行った。そうすることで、鑿行列が100年続く理由の根拠をより多面的な視点で考える姿に繋がった。最終的には図5の板書に見られるように、子どもたちの考えは、鑿行列は「楽しい行事」であり、「交流を深めたい」、「参加者や観客に喜んでほしい」「地区や松江市を盛り上げたい」といった願いが込められている行事であるということに収束していった。以下は第9時終了後の子どものふりかえりである。

※鑿行列が100年間続く理由について各グループの意見を出していった場面の抜粋

児童F：鑿行列が楽しいからだと思う。今は女の人も参加できるし、他の地区の人も参加できる。

T1：このきまりは誰が変えたんだっけ。

児童G：石橋3丁目や鑿友会の人たち。

T2：各団体で初めて参加した女の人はどう思ったかな。

児童H：楽しい。これからもやりたいなという気持ち。

児童I：今までできなかったけれど、鑿を叩けてうれしい。

T2：(鑿行列が100年間続く)理由を楽しいと思った人、他の意見ある？

児童J：鑿友会が当日におもちを投げた。

児童K：一番初めにしたときは叱られたらしいけれど。

T3：それでもやったのはなぜ？

児童L：みんなを盛り上げたいと思ったから。それに今年は100年目だし。記念だから。

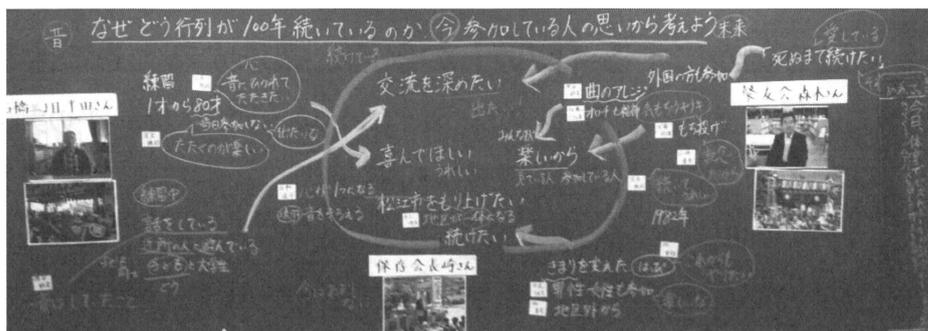


図5：第9時の授業後の板書

なぜ、どう行列が100年続いているのか考えました。やっぱり「みんなの交流が深まる」からだと思いました。もちろん、地区の交流も深まるけれど、松江の交流も深まり、心が合わさる市になると思います。どう行列は、ただ楽しむだけでなく、きずなが深まる行事です。だから、100年間も続いているんだと思いました。来年は参加してみたいです。あと、他にも松江で続く行事を調べてみたいです。(児童G)

鑿行列に携わる方の話や、立場の違う各団体の取り組みを比較し、関連づけ考えることで、鑿行列に込められた願いについて多面的に考えることができた。また、年中行事に願いが込められていることに気付いたことで、松江市の他の年中行事にも意識を向けることができた。

(4) 松江市で行われている他の年中行事を調べる (第11・12時)

他の年中行事について意識を向けた子どもたちの追求意欲をもとに、各自で他の年中行事について調べた。鑿行列に込められた願いと比較しながら調べることで、年中行事に込められている願いには共通するものがあることに気付いた。以下は子どものふりかえりである。

今日、川津ふるさと祭りのことを調べました。夏休みに地域の子どもと大人がお店を出してゲームをしたりする祭りです。何でやるのかというと、どう行列とにいて、川津の人たちが交流をして仲良くなるのが目的なんじゃないかと思いました。あと、楽しいから続けているんだと思います。(児童H)

5 おわりに

本単元では、子どもの問いが連続していくように、授業の構想で記述した3点を大切に実践した。学習対象として鑿を叩く体験や附属小学校に近い石橋3丁目を出会わせたことで、鑿行列という年中行事をより身近に感じながら追求することができた。また、第6時では「子どもの思考を揺さぶる資料」と「新たな問いを生み出す資料」を提示した。1時間の授業の中で2段階に分けて資料を使うことで、新たな問いが生まれ、追求が続いたことは成果と言える。そして、今回は石橋3丁目だけでなく鑿友会といった立場の違う団体からも話を聞いた。「なぜ鑿行列は100年間続いているのか」という単元を貫く問いについて、2団体を比較しながら考えることで、鑿行列に込められた願いについて、より多面的な視点を持ち考えることができた。

一方で第9時の話し合いの場においては、子どもの多様な意見が出にくく、話し合いが十分に深まらなかった。その原因としては、班で意見を伝える際にはたらしかけが不十分であったからである。今回は班でピラミッドチャートを使ったが、班で意見の序列を考える話し合いを行ったことによって、個々の意見でなく、班のまとめた意見で全体の話し合いが進んだ。また、話し合いの場において、子どもの考えを掘り下げることが十分にできなかった。それは問い返す視点や言葉を十分に明確にできていなかったからである。今後も子どもの問いが連続し追求が続きながら、社会科でつきたい力が身につく授業づくりのために、単元でつきたい力とそのための単元構成やはたらしかけを整理、明確にした授業実践をしていきたい。(文責 藤原 良平)